

## 市内初の生活困窮者「就労訓練事業所」認定

～一般就労を目指して訓練～

みつぎ清風園 竹井 誉智<sup>たかし</sup>



▲包装作業中の利用者さん

みつぎ清風園では、今年度から地域貢献事業として「就労訓練事業所」の認定を広島県から受けました。それにより、自立相談支援機関（各市町に設置）からの斡旋で、地域の生活困窮者に対して中間的就労の場を提供することになりました。

就労訓練事業は、一般企業ですぐに働くことが難しい方を対象としています。長期離職者、ニート、ひきこもり、精神疾患のある方などに、それぞれに応じた就労の機会を提供するとともに、生活面や健康面での相談支援も行います。個別の状況に応じて、就労の場を提供するものですが、最終的には一般就労につなげることを目標としています。

また、利用者さんとの雇用契約は結ばず、訓練として就労を体験する形態（非雇用型）となっています。定員2名で、就労内容は、当施設の園内作業である箱づくり作業、包装作業、袋詰作業、製袋作業等の作業支援補助を行っています。

これまでに自立相談支援機関「くらしサポートセンター尾道」をはじめ、近隣市町の相談機関に、対象者への情報発信をお願いしています。

尾道市内では初の認定事業所ですが、みつぎ清風園が生活困窮者の支援を行うことで、救護施設の果たす役割を広げていければと考えています。



▲箱作り作業

## 特養本館の改修工事が完了



▲新しくできた交流ラウンジ

2016年10月から始まった特養改修工事が2018年3月に無事完了しました。

居室や交流ラウンジも新しくなり、利用者さんやご家族からも「明るくなったね」と好評です。

## 県共同募金会から助成金



平成29年度NHK歳末たすけあい助成金の交付を受けました。

尾道さつき作業所に軽四車両「ハイゼットカーゴ」が納車されました。

## 介護職員(パート職員)

# 募集中

※年齢不問、詳細については下記にお問い合わせください

担当者：総務部 宮地  
(TEL)0848-37-7272

尾道さつき会ホームページのNEWS一覧をクリック。最新求人情報が確認いただけます。



## 寄付者一覧

(2018年1月～2018年4月・順不同・敬称略)

<寄付金> 崎谷 亘 天羽千賀子 國貞峰子 匿名希望 1名

## 編集後記

尾道観光協会が、尾道市政施行120周年の記念にカープとのコラボTシャツを作ったそうです。私も来月観戦に行くので、ぜひ身に付けて3連覇を願って応援してきます。(S.S)



発行 社会福祉法人 尾道さつき会

広島県尾道市久保町1786番地  
TEL (0848) 37-7272  
FAX (0848) 37-9610  
http://www.satukikai.com  
E-mail:hoshinosato@satukikai.com

## 就労継続支援A型事業所「ワークス尾道」を開所

～共に働き、共に成長～

ワークス尾道 高橋 いつみ



▲ワークス尾道の外観

4月1日から、尾道さつき会で2事業所目となる就労継続支援A型事業所（定員10名）を開所しました。A型事業所は利用される方と雇用契約を結び、最低賃金が保証されるなど、労働関係法規が適応される「雇用型」のサービスです。そのうえで、就労及び生産活動の機会を提供し、就労に必要な知識及び能力向上のための訓練などを行います。

現在、6名の方を雇用していますが、雇用の継続を維持するために、作業量の確保が重要な課題となります。「ワークス尾道」の開所にあたっては主な取引先である深川医療器様ならびに各関係企業様のご支援があり、スタートすることができました。

事業所の役割として、作業収入での賃金保証だけでなく一般就労を目標とした就労訓練も行います。事業所での雇用だけにとどまるのではなく、次のステップへ踏み出せる場所にしたいと職員一同考えています。一緒に日々の作業をこなすだけでは、それぞれの目標には近づけません。そのため、就業生活で必要な力を働きながら自然と身につけられるよう、作業内容を組み立てて支援しています。

作業内容は介護用マットレスの消毒です。全品丸洗いし、カビや臭いの除去も行います。集中力と体力のいる作業ですが、全員が使用する人のことを思い消毒することで、商品の質の向上を図っています。また、機械化を進め、6月にアタム技研株式会社製の大型乾燥機を導入しました。

私たちの事業所では「共に働き、共に成長する」をコンセプトに、全員で作業に取り組んでいます。現状に満足することなく、誰もが成長し続ける事業所を目指しています。



▲導入された機械を確認する利用者さん(左)と職員



## 働き方改革の実現に向けて

### ITを活用、タブレットを導入

ヘルパーステーション星の里 高杉 絢子

5月からヘルパーステーション星の里では、実施記録にタブレットを導入しました。

今までは援助を行った際の実施記録を紙で残し、一日のすべての援助終了後に事務所にもどり、記録をパソコンへ入力していました。そのためヘルパー同士の伝達や引き継ぎ事項は、電話やメモに頼ることが多く大きな負担でした。

職員の多くがタブレットを使用することがなかったため、まずは全員で操作方法を学ぶことからスタートしました。1週間ほどでほとんどの職員が順調に操作できるようになり、前向きに取り組んでいます。援助終了後にタブレットに直接入力すると、瞬時に報告が上がり、責任者だけでなく、ヘルパー間の情報共有もタイムリーになりました。そのおかげで、次に援助に入る職員は前もって準備することができ、安心して業務にあたることができています。

タブレットの活用により、訪問先からの直行直帰も可能になり、空いた時間も増え、オンとオフを区別しメリハリのついた働き方につながっています。

今後はこの新しいツールを活用し、ヘルパー同士の連携を高め、よりよい援助につなげていきたいと考えています。



▲タブレットの操作方法を学ぶ職員

### 見える化の取り組み

地域密着型特別養護老人ホーム星の里 宮前 友彦

星の里新館は2013年4月1日に開設し、小規模多機能型居宅介護事業所、地域密着型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護事業所の3事業所が併設されています。

昨年度は、OJTソリューションズの指導のもと、5S活動からはじまり、無駄の抽出・課題抽出・業務改善につながる取り組みをしました。さらに、施設のサービスにつながる「実行力=現場力」を高めるために、OJTソリューションズの「自律的な「人」を育て、定着のための「仕組み」の構築」について、3事業所で考えることをはじめました。

今年度は、法人重点事業の働き方改革の実現と、人材育成にむけた取り組みに力を入れています。具体的にどうしていくかも検討しました。各事業所の役割や受け入れ対象者の違いはありますが、星の里新館で介護サービスをご利用いただくことはどの事業所も同じです。私たちが提供している介護サービスの質や働く環境の違いを抽出し、できることは統一し、基本になるマニュアル作成と見える化に取り組みました。また、人事評価に基づいた介護技術チェックリストを作成、共有しています。

開所6年目を迎え、3事業所の基本的な介護の質の向上やコミュニケーションや連携がスムーズに行えることによる相乗効果を期待し、「計画・実施・評価・分析・改善サイクル」で取り組み始めています。

\*OJTソリューションズとは  
トヨタとリクルートの合併会社で、「人づくり、仕組みづくりが強い現場を生む」というコンセプトのもと、トヨタの改善のノウハウを活かして働きやすい職場づくりに取り組む企業です。



▲OJTソリューションズ 会議

異業種から尾道さつき会へ転職してきた職員や、福祉・医療系の学部外から入職してきた職員を今号から紹介します。



みつぎ清風園 竹井 誉智

#### Q1 前職は何でしたか

自動車メーカーで2年ほど営業事務を行っていました。業務内容は、お客様の注文処理・注文車両の製造状況確認・在庫車両の管理などです。

#### Q2 なぜさつき会を選びましたか

両親が高齢で地元へ戻る必要があったため、転職活動を行いました。今までのスキルが活かせる職種を探しており、その中でさつき会の求人を見つけ応募しました。入職後、職員の丁寧な言葉使いや笑顔、部門ごとの研修制度もあり、入職して良かったと思っています。

#### Q3 働き始めて異業種の経験が役立っていることは

現在、利用者さんの作業計画や園外実習の支援などの業務を行っています。交渉を行う際の話し方や、請求・納品処理に前職の経験が活かされていると思います。企業とのやり取りを円滑に行うことができています。

#### Q4 入職や転職を考えている人へのメッセージ

入職や転職を考えている人は、さまざまな業界を検討していると思います。その中でも、当法人のような福祉業界は、多岐にわたる知識や経験が必要となっています。今までの経験を活かしたい方や、新しい環境で仕事をしたい方にとってはチャレンジできる環境だと思います。



▲作業支援をする竹井職員

### 消防署員に介護講習

#### ～安全で安楽な支援～

尾道福祉専門学校 重岡 秀和

尾道福祉専門学校では、尾道消防署から依頼を受け2月14日、15日に「腰に負担のかからない優しい支援」というテーマで実技を交えての講義を行いました。

今まで救急隊員の方が行っていたのは「力」で介護するという方法でした。しかし、それでは介護する側の身体に無理がきてしまいます。生活支援技術の一番の基本は、「介護者・利用者双方の安全安楽な支援」です。



▲手の平全体で支援する



▲自分の重心を近づけ支援する

今回の研修では、「指を使わず手の平全体で支援する」「相手の身体や動きに合わせて支援する」「自分の重心を近づけながら支援する」ことが双方にとって大切であることを中心に話を進めました。それに加えて、一分一秒を争うような出勤時でも、笑顔で接し安心感を与えることも大切な支援と言えます。

研修を終え救急隊員の方からは、「日頃の業務では学べない技術だった」「今後の安全な救助活動に活かしたい」などの声がありました。